

ずきに応じた援助指導（小集団指導・ヒント・助言等）を行った。イ、学習プリントにより、個々の到達状況を把握し、到達目標達成のために個別に指導の手だてを行った。

ウ、学習指導カードを個別に作成し、その累積資料をもとに、授業中の指導の中で、また、放課後などを利用して、補充・強化指導を行った。

(四) 個々の到達状況の確認

- ① 形成的評価の到達度の設定
  - 計段階………完全解決
  - A 段階………基礎的・標準的な問題の解決
  - B 段階………基礎的な問題の解決
  - C 段階………自力解決なし
- ② 形成的評価の到達状況の把握
  - ア、学習時の形成的評価の問題ごとに、個々の到達状況を把握した。
  - イ、アの結果から、個々のつまずきの内容を分析し、それに応じた治療を行った。
  - ウ、評価問題ごとに学級全体の正答者数・正答率を把握した。さらに到達目標基準ごとに到達状況を把握した。
  - エ、ウの結果から、学級全体の到達状況を把握し、指導内容の検討を行った。
  - ③ 事前・事後・保持テストの実施
    - ア、学習の事前と事後に同一問題でテストを実施し、個々の到達状況

と変容をとらえた。その結果からつまずきの内容をとらえ、補充学習の資料とした。

イ、各問題ごとに、有効度指数を求め、指導の効果の判定に活用した。

ウ、事後テスト後一定期間後に保持テストを実施し、保持率を求めた。

エ、有効度指数70以上を有効と認め変容があったとした。

オ 以上の結果から、指導の効果と仮説の有効性を判定しようとした。

資料4 事前・事後テストの結果と有効度指数

問題No.	区分	正答率%		有効度指数
		事前	事後	
		の有効度指数		
1	上中下	91	100	100
	中下	18	100	100
	全体	16	100	100
2	上中下	30	100	100
	中下	24	100	100
	全体	19	100	100
3	上中下	30	86	84
	中下	10	45	45
	全体	12	76	73
4	上中下	30	100	100
	中下	10	86	84
	全体	12	79	76
5	上中下	20	100	100
	中下	10	27	27
	全体	10	76	73
6	上中下	20	90	88
	中下	5	71	70
	全体	10	27	20
7	上中下	0	100	100
	中下	24	100	100
	全体	12	100	100
8	上中下	19	100	100
	中下	10	82	83
	全体	10	88	87
9	上中下	0	100	100
	中下	5	72	71
	全体	2	81	81
10	上中下	20	100	100
	中下	3	73	73
	全体	2	93	91
平均	上中下	22	98	97
	中下	2	68	67
	全体	3	86	83

資料3 形成的評価の結果

指導内容	到達目標区分	正答率% (平均)				
		形成(補充)	計	深化	計	発展
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全部のものを並べるときの場合の数のもつめ方</li> <li>○ 樹形図による処理のしかた</li> <li>○ 2種類のをいくつか取って並べる場合の順列</li> <li>○ いくつかのうちから2つ取る場合の組み合わせ</li> <li>○ 2つの組合せを、表や図によって整理する方法</li> </ul>	上位群	100	94	100	84	96
	中位群	97		85		64
	下位群	84	66	22		

- (五) 学習意欲の向上の確認
- ① 毎時間の学習について、自己のつまずきや到達の度合いを確認させ、その後の学習に生かせるようにするため、自己評価カードを作成し、授業のまとめの段階で使用した。
  - ② 算数の学習に対して、取り組み方や意識がどう変容したか、事前と事後に同一質問でアンケートを実施し、その変容から指導の効果の判定をみる一つの資料とした。
- (四) ① 有効度指数が70以上の問題は十問中九問で、有効度指数が60という問題が一間あるものの、「場合の数」について、全体的にみて到達目標に達したとみてよいであろう。
- ② 特に、問題一、二、七、八、九の有効度指数が80を越えたことは、「場合の数」の基本がよく定着したことを示している。
- ③ 有効度指数が60の問題六については、児童にとって二種類のもの
- (六) 検証考察
- 検証授業の考察(省略)
- 診断テストの結果(省略)
- 形成的評価の結果(資料3)
- ① 上位群についてみると、それぞれの問題に対して90%以上の正答率で、十分満足できる結果が得られた。
  - ② 中位群では、発展問題の正答率が少し低いものの、診断問題で平均97%、深化問題で平均85%の正答率があったことから、学習内容の定着が図られたと思われる。
  - ③ 下位群では、診断問題で平均84%の正答率があったことは、一応基本的な学習内容は理解されたと思われる。しかし、深化・発展問題の正答率が低いことは、十分な理解には至らなかったと思われる。事前・事後・保持テストの結果(資料4)